

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

部門名  
 校内研修プログラム開発・実践部門  
 エントリー名  
 北海道釧路市立鳥取西小学校 教諭 関本 裕介  
 (平成30年度第3回中堅教員研修修了)

活動名  
 効果、効率重視の校内研修  
 校内研修で学校、働き方改善

解決すべき課題  
 ○課題1 校内研修の効果を実感できないことで、教員の研修意欲が高まらないという課題。  
 ○課題2 教員の自校カリキュラム・マネジメントへの参画意識が不足しているという課題。

目標・方針  
 ○課題1の解決に向けて  
 ①校内研修の目的を明確にする。研修内容を精選する。  
 ②研究と実践の効果を詳細に検証して授業づくりの改善策を提案する。  
 ③研究目標の達成に向けた授業実践を推進していく「研究&実践マネジメントサイクル」を構築する。  
 ○課題2の解決に向けて  
 ④校内研修の中で学校課題の抽出を行い、その改善策について、すべての教員で検討する機会を持つ。

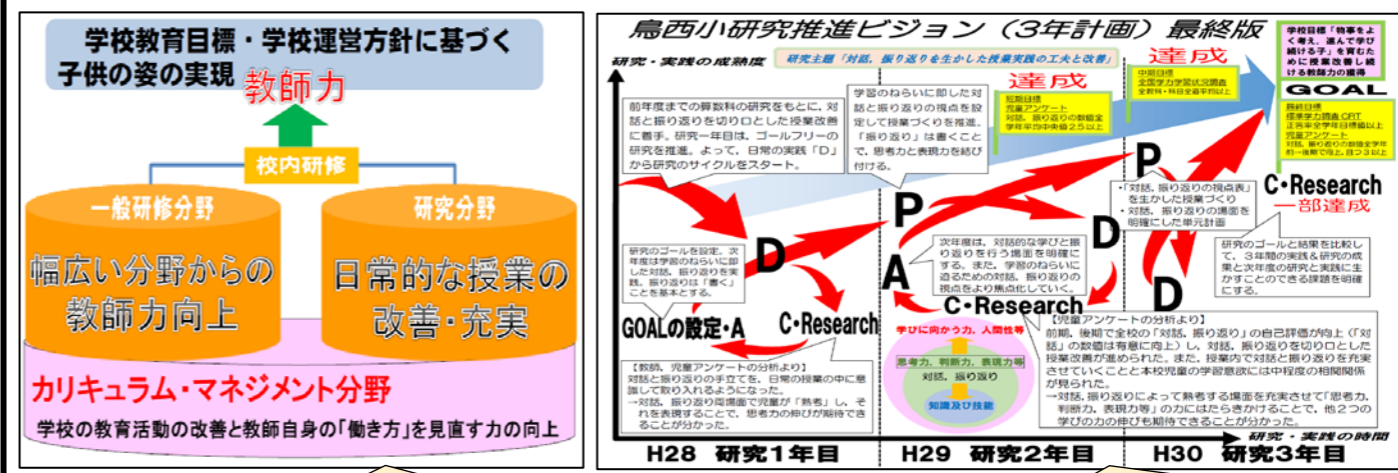
活動内容  
 ○上欄①に関わる具体的取組  
 学校教育目標、学校長の方針に基づく子供像の実現に迫るための教師力育成を目的として、本校の校内研修を「研究分野」、「一般研修分野」、「カリキュラム・マネジメント分野」の3分野に区分した。(図1)  
 ○上欄②・③に関わる具体的取組  
 ・研究内容を確実に日常の実践につなげていくことを目指し、研究主題を簡潔な文言にして授業づくりのイメージを共有しやすくした。<研究主題「対話、振り返りを生かした授業実践の工夫と改善」>  
 ・研究推進のビジョン(図2)を作成した。研究のゴールと短期・中期目標を設定して、研究と実践の成果(児童の学習意欲の変化)を定期的に分析(表1)し、授業の改善策を提案した。

○上欄④に関わる具体的取組  
 定期的に「カリキュラム・マネジメント分野」の校内研修を実施し、すべての教員で自校の教育活動と、自身の働き方との関連を見直し、その効果、効率を検証した。(図3・写真1)

活動の成果  
 ○課題1の解決に向けて活動した成果  
 ・研修を分野別に3つに分けて研修内容を精選し、年間の研修回数を削減することができた。  
 ・平成30年度12月末の教職員アンケート(4件法アンケート)結果では、「自校校内研修への参加意欲、研究主題に沿った日々の授業づくりへの意欲」に関わる質問に対して、否定的な回答がすべて無くなり、全教員から肯定的な回答(「十分そう思う」、「思う」)を得ることができた。  
 ・教職員が一つのチームとなって研修を進める体制、風土を確立できた。(写真2)  
 ○課題2の解決に向けて活動した成果  
 ・学校課題の改善、および自身の働き方を改善していこうとする意識を持つことができた。

アピールポイント(アイデアや工夫)  
 ・校内研修のスリム化と実用化につながる、「研究&実践マネジメントサイクル」は、各学校の実態に即して活用できる。  
 ・校内研修を生かして教職員の同僚性を高め、健康職場モデルの実現を目指していくことができる。  
 ・学校の教育活動の点検、改善と教員自身の教育活動の見直しとを関連させ、カリキュラム・マネジメントの機能の中で教員一人一人の働き方を改善する力を持続的に高めていくことができる。

<写真、図表添付欄>  
 (図1) 校内研修を3分野に整理 (図2) 研究のゴール、短期・中期目標を示した研究推進ビジョン



自校の学校課題や、自らの働き方に向き合う力を「教師力」の基盤と捉えた。  
 研究推進のビジョンを掲げて、目標と現状との差を明示し、研究、実践の見通しを持ち続けられるようにした。

(表1) 「図2 研究推進ビジョン」に沿って、研究と実践の成果を分析

平成30年度(12月)と平成29年度(12月)の「児童学習アンケート結果」比較

項目	平成29年度	平成30年度
①授業中の「対話」は、学習の理解に役立つという実感	2.95	* 3.08
②授業中の「振り返り」は、学習の理解に役立つという実感	3.06	** 3.18
③自分は、学習への努力をしているという実感	3.34	3.43
④勉強をがんばれば、学習内容を理解できるという実感	2.18	2.22
⑤先生がわかりやすく勉強を教えてくれるという実感	2.57	* 2.71

\* p<0.05 \*\* p<0.01

相関係数の目安  
 0.7~1 強い相関あり  
 0.4~0.7 中程度の相関あり  
 0.2~0.4 弱い相関あり  
 0~0.2 ほぼ相関なし

平成30年度児童学習アンケート項目間の相関

	①授業中の「対話」への効力感	②授業中の「振り返り」への効力感	③学習への努力	④学習内容を理解できるという実感	⑤先生の指導
①授業中の「対話」への効力感	1				
②授業中の「振り返り」への効力感	0.52	1			
③学習への努力	0.51	0.54	1		
④学習内容を理解できるという実感	0.38	0.55	0.42	1	
⑤先生の指導	0.47	0.51	0.49	0.49	1

児童の学習意欲変化を分析。また、研究実践課題である「対話」、「振り返り」と学習意欲との相関も明らかにして、すべての教員の納得を得ながら研究、実践を進めるようにした。

(写真2) 本校公開研究会 参加者からいただいた感想より



校内研修を充実させていくことにより、自校の同僚性を高めて「チーム学校」づくりを進めることができた。

自校の課題と、教員自身の日常の教育活動とを関連させて、改善策を検討する機会を研修の中で確保した。